

離島における子牛の流通費用

森 国 男

(長崎県総合農林試験場)

MORI, K.

Marketing Costs of Calf in the Isolated Island.

長崎県の子牛価格を概観すれば1頭当りでは本土地域に属する守山市場が高いが、体重1kg当りで見ると離島に高いところが多い。

この価格に離島であるが故の流通費用が加算されるが、この額は販売者、購入者にとって無視できない額と考えられている。

子牛の流通費用には入場料、手数料、互助会費、ヨコ持運賃、飼育費、海上運賃等が含まれるが、この過程において販売者(農家)と購入者が本土地域に比較してどれほどの超過負担となっているかを検討してみる。

上記諸費用のうち、離島の農家が本土地域に比して特に負担しなければならないのはヨコ持運賃(市場までの搬入費)と飼育費であるが、前者の中には離島の中でさらにその属島より中心市場に搬入するために海上輸送を伴うための運賃(看視料、飼料費加算)を要する地域(上五島、生月、大島等)では1,000円~2,500円が販売農家の支出増となる。

飼育費はせり取後、本土地域であれば、売買された子牛は大半は購入者に当日引取られるが、離島では海上輸送が必要となるため船便の関係上2~3日程度農家または共同飼育施設で飼育されるが、この費用は多くの場合1週間は農家で、以後は購入者が負担(1日200円)することになっている。

したがって、一般的な農家にあつては500円、属島ではさらに1,000円程度の超過負担となっている。

一方、購入者にとって飼育費は引取りが1週間以後にもわたる例はまれであるため実質的な負担はないが、海上運賃(700~5,000円)約2,000円と、せり参加期間内(延2日程度)に要する離島内宿泊費および旅費は最低20,000円要するといわれ、1開催期間の1人平均購入頭

数は10頭であるから、1頭当り2,000円、計4,000円の支出増となる。

この超過負担額の販売額に占める割合で見れば福江市場の場合は、農家が最高1.1%(最低0%)、購入者の平均は1.8%とそのウエイトは小さいが、一般的な総流通費率は農家の場合3.7%(最低2.6%)購入者が3.3%(平均)となっている。

これら諸費用の増加は購入者にとって購入費用の上昇をもたらし、本土地域子牛との販売価格差はさらに拡大する。資質的にみて両地域の差はないとされているので、これが説明のためには購入者(家畜商)の活動解明が必要となるが、一般的に取引を主として特定の家畜市場に依拠し、固定した地域への販売を通じて利益を得ることが可能であるためと考えられる。

離島の子牛流通に関してはかつて機帆船による輸送が主体であった。そのため一定規模の頭数にまとめ輸送コストを低下させる必要から、家畜商同志が機帆船に積合わせていたが、このことが必然的に市場での談合という悪習を温存していたと報告されている。しかし、カーフェリー就航によって機帆船の役割が低下し、一方家畜市場の統合の結果、上述の悪習は意識されない程度となり、市場価格の上昇がもたらされた。

市場統合による効果は上述のほか、直接的には購入者の島内滞在費を節減させた効果は大きい(対馬では6市場を1週間にわたっていたが統合後は1日で終了する)。しかしながら反面では農家がせり市場に前日より搬入しなければならないため、体重減を生じるなど問題がある。

このように現段階での市場統合は功罪相半ばする面が見受けられるので、その評価は今後またなければならぬ。